

「今日、保育園へ行って来た。大変だった～」と帰るなり中学生の息子が私に話しかけてきました。「あれ？職場体験は終わったのに、どうして？」と聞くと、

「保育実習だよ。3歳の子たちは、一度にわ～っと来るし、体をよじ登ってくるし、疲れた～」と言って、その日は、食後にテレビも見ずすぐに寝てしまいました。

突然ですが、みなさんは、中学校・高校のときに、家庭科を男女一緒に学びましたか？家庭科が男女共修になったのは、中学校が平成5年（1993年）、高校は翌6年（1994年）からです。私自身は、高校の時に女子だけで保育を学習した世代なのであまりピンときませんでした。

息子が話してくれたのは、家庭科の「乳幼児との触れ合い体験」の出来事だったのです。これは、平成20年（2008）の学習指導要領改訂から全員履修する内容になり、次期学習指導要領（平成29年度改訂）にも含まれています。



中高生を対象とした意識調査によると、小さな子供（小学校に入る前の乳幼児）と「触れ合う機会はない」と回答した生徒の割合は、72.7%。高校生に限ると82.2%と高い水準を示しています。触れ合う機会としては、中高生全体で「学校の授業や行事」との回答が10.3%で最も多く、「親戚の子供と遊んだり、世話をしたりしている」の8.9%を上回っているとのことです。（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「子育て支援策等に関する調査2014（中高生の意識調査）」より）

このようなデータから分かるように「乳幼児触れ合い体験」は、少子化や核家族化が進行する中、自分と異なる世代と接する機会が少なくなっている今の中学生や高校生が、小さい子供と触れ合える貴重な機会となっているようです。

その教育効果は、「乳幼児に対するイメージの好転」「親の育児責任の理解」「適切な養育について見る目を養う」などが挙げられるそうです。また、「乳幼児と触れ合う機会が多かった人は、そうでない人に比べて結婚意欲が高く、希望する子どもの数が多い」（国立社会保障・人口問題研究所（2016）「第15回出生動向基本調査」）など少子化対策として、また虐待などにつながる親の育児不安の軽減効果も期待されています。

息子は今回の保育実習で「幼児は相当手強い」と気づいたり「子育ては大変だ」と感じたりしたようで、それ以降ご飯の準備や洗濯物の用意の度に「ありがとう」と感謝の言葉を

口にするようになりました。

いつか息子が大人になって「子育て大変だった？」と聞いてきたら、「大変だったけど、結構楽しかったよ」と言ってやりたいと思います。【Ｙ】

※次回のメルマガは、9月6日（金）に配信します。

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^\_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^\_^)/

\*\*\*\*\*

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索